

審査の結果の要旨

氏名 南谷真理子

本研究は、日本の妊婦において閉塞性睡眠時無呼吸の実態と予測因子の特定、さらに閉塞性睡眠時無呼吸とその後の妊娠高血圧症候群の発症を検討するため、妊娠後期の妊婦を対象に、携帯型睡眠評価装置を用いて観察研究を実施した。その結果、以下の3つが主な結果として明らかになった。

1. 日本の妊婦での閉塞性睡眠時無呼吸陽性者の割合は、8.6%であった。
2. 妊婦の閉塞性睡眠時無呼吸の予測因子には、非妊時の高いBody Mass Index (BMI)と喘息の持病があることが明らかとなった。
3. 妊婦の閉塞性睡眠時無呼吸は、年齢や非妊時BMIで調整した後も、その後の妊娠高血圧症候群発症に関連していることが明らかとなった。

以上、本研究では、閉塞性睡眠時無呼吸のリスク因子となる肥満の割合が少ない日本の妊婦集団で、閉塞性睡眠時無呼吸の実態と、予測因子として非妊時の高いBMI、喘息の持病があることを明らかにした。さらに、妊娠高血圧症候群の発症リスクを高めることも明らかにした。

本結果は、肥満の割合が少ない日本の妊婦集団でも、閉塞性睡眠時無呼吸を潜在的に持つ者の存在を明らかにした初めての研究である。さらに、閉塞性睡眠時無呼吸がBMIとは独立して、妊娠高血圧症候群の発症リスクを高めることを初めて明らかにし、妊婦の閉塞性睡眠時無呼吸を早期に発見し、適切な治療につなげることの重要性が示唆された。また、世界的に見ても検討が不十分であった、妊婦の閉塞性睡眠時無呼吸の予測因子を特定した研究であり、本結果は、臨床実践において妊婦に潜在する閉塞性睡眠時無呼吸のリスクアセスメントの一助となりうる。

そのため、本結果は、これまで十分研究されてこなかった、妊娠期の閉塞性睡眠時無呼吸に関するケアの根拠として重要な貢献を果たすと考え、学位の授与に値するものと考えられる。